【ご参考】

上場会社名	中外製薬株式会社
コード番号	4519（東証・大証・名証・福証）
本社所在地	東京都中央区京橋 2-1-9
代　表　者	代表取締役社長　　永山　治
問い合せ先	責任者役職名　広報・IR 部長
	氏　　名　籠島　鎮男
	電 話 番 号　03(3273)0881

各　位

2003 年 1 月 29 日

中外製薬 研究／生産立地の再編について

中外製薬株式会社[本社：東京都中央区／社長：永山 治]（以下、中外製薬）は、経営資源のより一層の効率化、集中化による強固な事業基盤確立を目的とした取り組みの一環として、研究・生産立地の再編に着手する中で、この程、高田研究所［東京都豊島区］の閉鎖と当該土地の売却、松永工場[広島県福山市／工場長：寺薗 隆]の閉鎖と当社子会社である広島中外製薬株式会社［社長：鷺谷勝弘］（以下、広島中外）の解散、および高岡工場［富山県高岡市／工場長：五島 茂］の製造機能譲渡と当社子会社である高岡中外製薬株式会社［社長：勝見 彪］（以下、高岡中外）の株式譲渡を決定しましたのでお知らせいたします。

中外製薬は現在、昨年 10 月にスタートしたロシュとの戦略的アライアンスを最大限に活用した事業展開を通じて、できるだけ早期にグローバルな基盤を有する国内有数の研究開発型製薬企業としてさらなる発展をすべく、売上シナジー（売上生産性の向上）、コストシナジー（コスト構造の改善）、研究開発シナジー（開発パイプラインの向上および研究効率の改善）の極大化に全社を挙げて取り組んでいます。
そのため、研究・生産立地の再編は不可欠な課題と認識され、検討されてきました。

今回の決定により、研究・開発は国内 5 拠点、海外 1 拠点体制［富士御殿場：御殿場市／筑波：茨城県新治郡／高田：東京都豊島区／浮間：東京都北区／鎌倉：鎌倉市／中外ファーマ USA：米国サンディエゴ］から、富士御殿場、鎌倉、筑波、浮間、中外ファーマ USA の国内４拠点、海外１拠点へと再編されます。
また生産は国内 7 拠点体制［宇都宮：宇都宮市／藤枝：藤枝市／鏡石：福島県岩瀬郡／

鎌倉：鎌倉市／浮間：東京都北区／松永：福山市／高岡：高岡市］から、宇都宮、藤枝、鏡石、鎌倉の４拠点体制へと再編されます（浮間は開発研究の拠点へ整備を進める）。

なお、この再編により年間 25 億円の固定費圧縮を見込んでいます。

［ 研究立地の再編 ］

－高田研究所の閉鎖・売却－
高田研究所は、1950 年の技術部研究所設置を起源とし、1960 年の綜合研究所竣工を契機に、長く当社研究機能の中核を担ってきました。現在は、医家向研究としての工業化研究の一部と製品育成研究、およびヘルスケア研究等の拠点となっています。これらの高田研究所を拠点とする各機能を、中外製薬グループの既存事業所へ移転の上、2003 年 12 月末をもって閉鎖、当該土地を売却します。

高田研究所は東京都心の一角に位置しており、敷地面積も十分でないことから、周辺の急速な宅地化に伴い研究立地としての適性は低下傾向にありました。このため医家向研究については、1987 年に富士御殿場研究所を竣工させ、探索・創薬研究機能を移転、1997 年より進めてきた開発研究拠点再編の取り組みの中では、前臨床研究機能と工業化研究機能を段階的に富士御殿場研究所または浮間工場敷地内へ移転させてきました。さらに 2003 年 6 月に高田研究所の工業化研究機能（製薬研究、分析研究機能）を、8 月（予定）には同じく製品育成研究機能を移転させ、医家向研究機能の移転を完了する予定です。また、ヘルスケア研究機能は 2003 年 9 月末までに移転します。

［ 生産立地の再編］
一般用医薬品市場が冷え込む中、当社も主力製品である 100㎖ ドリンク剤およびミニドリンク剤の販売も苦戦を強いられており、コスト競争力の一層の強化、固定費削減の視点から生産体制の抜本的な見直しが急務となっていました。
そうした中、薬事法改正（販売承認制移行）を見据えた製造受託企業によるコスト競争の一層の激化も予想されるところとなり、こうした諸課題に対応するには、これまでのような生産方式では解決が困難と判断、外部委託先へアウトソーシングすることをもってコスト競争力の向上を図ることとしました。

－松永工場の閉鎖と広島中外の解散－
松永工場は、1996 年に中外製薬の 100%子会社として設立した広島中外を製造請負会社として、一般用医薬品事業の主力品の一つである『グロンサン内服液』などミニドリンク剤のほか、ジギタリス配糖体製剤『ジゴシン注』、胃炎・消化性潰瘍治療剤『アルサ

ルミン液』といった医療用医薬品の注射剤や液剤を生産しています。
しかし松永工場は、狭隘な敷地と周辺の宅地化の進展により、近年、工場立地としての適性が低下してきており、前述した諸課題の解決は工場のリニューアルなどの方法をもってしても極めて難しいと判断、そこで広島中外への製造委託を中止し、外部委託先へアウトソーシングすることとしました。
具体的には、ミニドリンク剤は2003年3月末をもって委託を終了し、以降、大同薬品工業株式会社[本社：大阪市中央区／代表取締役社長：髙松芳美]に製造承認承継（外製）を行います。また医療用注射剤は2003年10月末をもって委託を終了し、以降、小林製薬工業株式会社[本社：東京都世田谷区／社長：野々山重男]に製造承認承継（外製）を行います。同じく液剤は2003年11月末をもって委託を終了し、以降、中北薬品株式会社[本社：名古屋市中区／代表取締役社長：中北智久]に製造承認承継（外製）を行います。
この外製化措置に伴い、松永工場は2003年12月末で閉鎖、その後、広島中外についても所定の手続きを経て解散（清算）します。

－高岡工場製造機能の譲渡と高岡中外の株式譲渡－
高岡工場は、1999年に中外製薬の子会社（2001年から100%子会社）として設立した高岡中外を製造請負会社として、一般用医薬品事業の主力品の一つである『新グロモント』を生産しています。
しかし、現状の生産量の中で前述した諸課題の解決は困難と判断、そこで中外製薬高岡工場が有する製造機能を、同じ100㎖ドリンク剤を製造・販売する富士薬品に譲渡し、両社の100㎖ドリンク剤の集中生産体制を構築することをもって、コスト競争力の一層の強化を果たすこととしました。
具体的には、中外製薬が所有し高岡中外が使用している工場用地、建物および付属物、設備の一切を2003年3月31日付で高岡中外へ譲渡し、併せて、製造承認についても同社に承継を行います。
また同日付で、中外製薬が所有する高岡中外の全株式を株式会社富士薬品[本社：さいたま市／社長：高柳貞夫]（以下、富士薬品）へ譲渡し、高岡中外を富士薬品の100%出資製造子会社へ切り替えると同時に、富士薬品の手により高岡中外の商号変更登記を行います。
このことにより、本年4月以降、『新グロモント』の製造を富士薬品の製造子会社となる高岡中外（3月31日付で商号変更）への外製に切り替えます。

以上

＜資料１＞

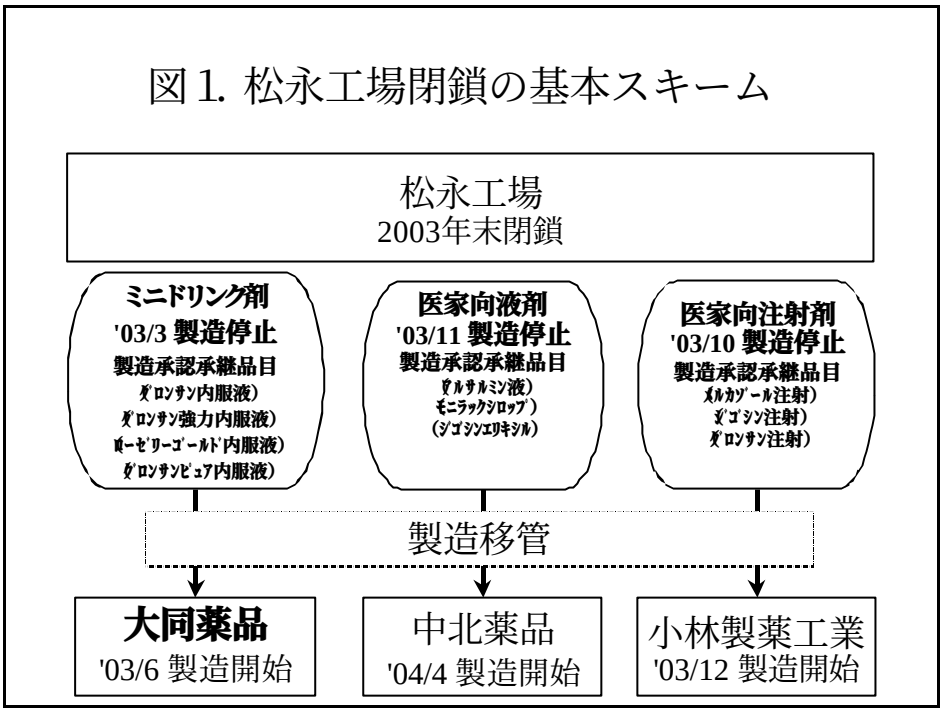
図１. 松永工場閉鎖の基本スキーム
松永工場
2003年末閉鎖
ミニドリンク剤
'03/3 製造停止
製造承認承継品目
ﾀﾞﾛﾝｻﾝ内服液）
ﾀﾞﾛﾝｻﾝ強力内服液）
ﾒｰｾﾞﾘｰｺﾞｰﾙﾄﾞ内服液）
ﾀﾞﾛﾝｻﾝﾋﾟｭｱ内服液）
医家向液剤
'03/11 製造停止
製造承認承継品目
ﾀﾞﾙｻﾙﾐﾝ液）
ﾓﾆﾗｯｸｼﾛｯﾌﾟ）
（ｼﾞｺﾞｼﾝｴﾘｷｼﾙ）
医家向注射剤
'03/10 製造停止
製造承認承継品目
ﾒﾙｶｿﾞｰﾙ注射）
ｼﾞｺﾞｼﾝ注射）
ﾀﾞﾛﾝｻﾝ注射）
製造移管
大同薬品
'03/6 製造開始
中北薬品
'04/4 製造開始
小林製薬工業
'03/12 製造開始

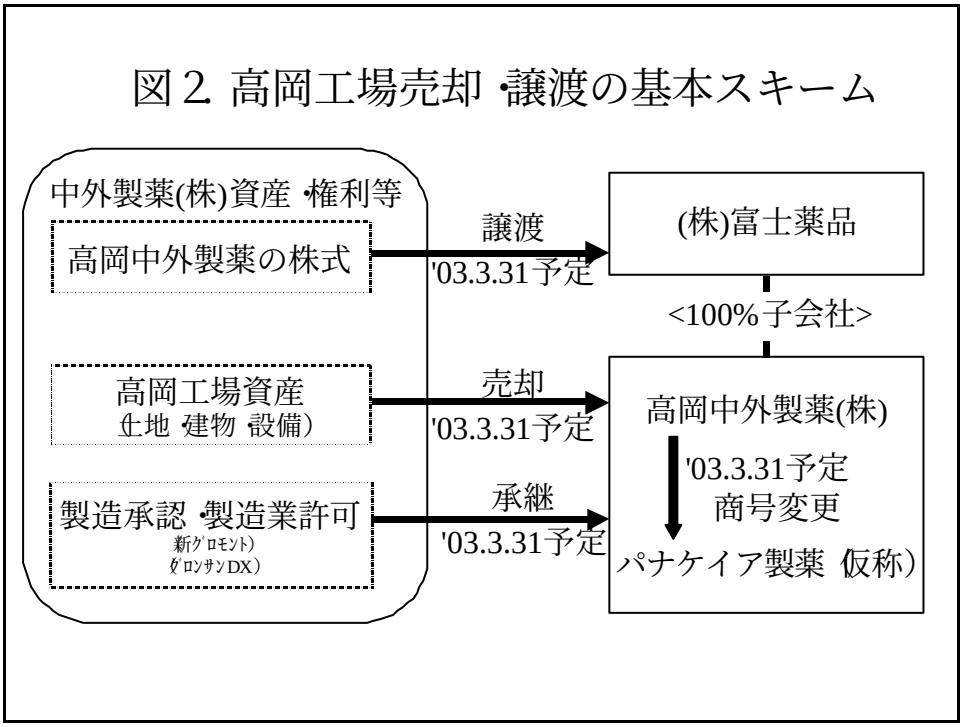
図２. 高岡工場売却・譲渡の基本スキーム
中外製薬(株)資産・権利等
高岡中外製薬の株式
譲渡
'03.3.31予定
(株)富士薬品
<100%子会社>
高岡工場資産
（土地 建物 設備）
売却
'03.3.31予定
高岡中外製薬(株)
'03.3.31予定
商号変更
製造承認・製造業許可
新ｸﾞﾛﾓﾝﾄ）
ﾀﾞﾛﾝｻﾝDX）
承継
'03.3.31予定
パナケイア製薬（仮称）

＜資料２＞

株式会社 富士薬品

設立	昭和 29 年 4 月
本社所在地	さいたま市桜木町 4-383
資本金	315 百万円
売上高	84,501 百万円（2002 年３月期）
従業員数	3307 名
事業内容	医薬品製造、配置薬販売事業、薬局販売事業等
工場所在地	富山県婦負郡婦中町

大同薬品工業株式会社

設立	昭和 31 年 7 月
本社所在地	大阪市中央区西心斎橋 1-2-4
資本金	55 百万円
売上高	7,115 百万円（2002 年１月期）
従業員数	130 名
事業内容	医薬品・医薬部外品・清涼飲料水・炭酸飲料の製造販売
工場所在地	奈良県北葛城郡新庄町

小林製薬工業株式会社

設立	昭和 22 年 9 月
本社所在地	東京都世田谷区代田 6-6-25
資本金	924 百万円
売上高	3,668 百万円（2001 年 3 月期）
従業員数	170 名
事業内容	医薬品の製造
工場所在地	神奈川県厚木市

中北薬品株式会社

設立	大正 8 年 2 月
本社所在地	名古屋市中区丸の内 3-11-9
資本金	867 百万円
売上高	77,249 百万円（2001 年 10 月～2002 年 3 月期）
従業員数	1241 名
事業内容	医薬品卸、医薬品製剤製造
工場所在地	愛知県津島市